

三心を磨く

学校だより No. 3

令和8年7月27日(月)発行

須坂市立東中学校

文責：(教頭)

<https://azuma.suzaka.ed.jp/>

一学期終業式 ～校長講話より～

1年生のみなさんは、入学式の日から4ヶ月がたちました。中学校生活にはもう慣れましたか。たった4ヶ月ですが、入学当初のあどけなさから、表情や行動、姿が随分中学生らしくなったと感じています。

7月に1年生は数学の研究授業がありましたね。そこでのみなさんの素晴らしい姿を、全校のみなさんに少し紹介します。文字式の単元でした。どちらのクラスも、「なんでそうなるのかな」「あっ、わかったかも!」「これってこういうことじゃない?」「ねえ、わかんない。もう一度説明して」など、頭をフル回転させて、みんなで一生懸命考えていました。

私がすごいなと思ったのは、50分間話し合いを続ける粘り強さがあること。わからないことに会っても自分を諦めないで何とかしようとする。そして何と言っても、クラスの仲が良いことです。誰とグループになっても自分の考えを仲間に差し出せるし、誰の話もしっかり聴ける仲間なのだのと、すごく羨ましくなりました。

慣れないことも多くて大変だったと思いますが、本当に良く頑張った4ヶ月でした。1年生は東中の「宝」です。中学校の様子もわかってきたと思うので、2学期は一層自分たちから輝きを放ってくれることを期待しています。

2年生は、1年生の時と随分雰囲気が変わったと感じます。とても良い意味です。パワフルでエネルギーのある学年だと思っていたのですが、今、そのエネルギーを次の段階に向けてじっくり蓄えているように見えます。

1年生と3年生の間で、東中を支える大黒柱として、ちゃんと「自分たちが今やるべきこと」を考えて動いてくれています。生徒会活動、給食や清掃、時間を守ること、部活、そして授業に向かう姿勢。日常の当たり前のこと、目立たない普通のことを、地道にコツコツ毎日やっていますよね。それが本当に素晴らしいと思うのです。

2年生という時期は「自分としっかり向き合う」、もっと具体的に言うと「自分の顔を作る」時です。中学生の時期は、子どもの顔から少しずつ大人の顔へと変わりはじめます。不思議と顔には、その人の生き方や歴史がにじみ出てくるものです。なんとなく過ごしてしまうと、「中だるみの2年生」になってしまいます。「ここを伸ばしたい、これを克服したい」という目標をしっかりとって、2学期も自分自身を鍛えていってほしいと思います。

3年生のみなさんは一学期早々の修学旅行での、礼儀正しく温かい振る舞い、さすが「東中の顔」だと感心しました。

総合的な学習の時間での姿も印象的でした。2人紹介させてください。郷土食の研究をしているおやき班の〇さんは、去年の反省を生かして「包みやすい具の量」を自分自身の課題として追究していました。言葉はなくとも、一緒にいる1・2年生へさりげなく気を配りながら、自分のおやき作りに黙々と集中する姿。そこには、3年間探究を重ねてきた先輩ならではの「背中で語る格好良さ」がありました。隣にいた1・2年生は、〇さんがそばにいてくれるだけで安心して、自分のお

やき作りに没頭できたと思います。

また、中庭でベンチの修繕をしていたKさんは、地域（堀内建材）の方が見守ってくださる中で、「ヤスリがけに集中する時間」と「作業の隙間にメンバーと会話する時間」を自分なりに考えて行動していました。学年の違う誰かと一緒に何かを創り出す面白さには、会話のほかに、一体どんなことがあるのでしょうか。更に追究してほしいと思っています。

総合的な学習のテーマは「東の地域を輝かせよう」です。東地域のみんなが笑顔になれば、きっと輝きますよね。

この2人の3年生のように、自分で考えて、気づきや発見から探究を広げていってほしいと思います。「〇〇するにはどうしたらいいだろう？」「次は〇〇してみたいな！」「〇〇すると良いのではないかな？」などという自分なりのアイデアを、ぜひ2学期に実現させてみてください。みなさんの自由な発想からどんな世界が拓けていくのか、想像するだけでワクワクします。さすが3年生、本当に頼もしい姿でした。

さて、全校のみなさん、一学期、自分のどんな発見がありましたか？お話をひとつ、聞いてくだ



さい。題は『ええところ』です。～絵本音読略～

紹介した絵本のように、みなさんは自分の「ええところ」を発見できましたか。友達や、あまり話したことがないクラスメイトの「ええところ」はどうでしょうか。まだ一学期が終わったところです。二学期も三学期も残っています。自分やみんなの「ええところ」をたくさん発見していきましょう。

さあ、今日で一学期が終了です。みなさんが、今日という日を迎えられたことを、とても嬉しく思います。この一学期、それぞれ自分のペースでよく頑張りました。全校の一人ひとりが、今日までそれぞれの歩みを一步一步自分の力で進めてきたと思います。

明日からの夏休み、まず自分の心と体をしっかり休ませる時間にしてください。また、風邪など引かないように

気をつけ、事故やケガのない休みにしましょう。またみなさんの笑顔に会えるのを楽しみにしています。

終業式 代表生徒の発表より

「一学期学んだこと、頑張ったこと」

1年1組

僕が一学期学んだこと、頑張ったことは、三つあります。



一つ目は、アズマデーです。アズマデーは、国立妙高青少年自然の家から山田さんが来てくださり、1学年でレクリエーションをやりました。最初の方は、1学年全体でやっていましたが、途中からランダムに集まった10人で協力しながら、指定された形を作ったり、チームのタイムを競い合ったりしていました。特に僕は、目隠しをして、指定された形を作る活動が心に残っています。指示をするときに体を触っては駄目なルールで、指定された形を作るのが、とても大変でした。また

時間があったら、1学年で様々なレクリエーションをやりたいです。

二つ目は、台湾の中学生との交流です。授業は、社会と美術でした。英語が全然話せないので、ジェスチャーやタブレットで翻訳をしたりして、会話をしました。美術の授業では、モダンテクニックを使って、七夕の飾りを作りました。僕は、スクラッチが楽しかったです。つまようじで、絵や文字を描くのが大変でした。



三つ目は、学級長としてです。学級をまとめたり、クラスの目標を決めたりするときに司会をしました。また、課題もあります。クラスの仲間を廊下で整列させるときに、素早く、静かに整列するように呼びかけができなかったので、2学期は、この課題が残らないように、クラスをまとめていきたいです。

「一学期を振り返って」

2年1組

私が一学期、印象に残っていることは二つあります。まずは職場体験学習です。初めての職場体



験学習で緊張したけれど、当日までに教わってきた就職したときに必要なマナーを活かして行動することができました。私は図書館や新聞社に行きましたが、職員の方に勇気を出して様々な質問をすることができました。実際に体験してみて働くことの大変さや仕事のやりがいなどを経験したことで、自分にとって大きな学びがありました。将来社会に出て、活躍するためにはたくさんの勉強や経験が必要になるので、これからの学校生活でもたくさんのことに

積極的に挑戦していきたいです。

次に、一学期の中で課題が残るところは期末テストに向けての勉強方法です。私は今回の期末テストで目標の点数に届くことができませんでした。それは自分の苦手な問題をきちんと把握できていなかったことと、効率よく時間を使うことができなかったからです。なので、二学期からは、苦手な問題をきちんと把握しそこを重点的に復習をして効率よく勉強をしたいです。



「一学期の反省と二学期への決意」

3年1組

僕は、一学期を振り返ると、良かったことと課題が残ったことの両方がありました。

まず、学校行事では修学旅行が特に印象に残っています。僕は統率係長として、バスに乗る前やお寺・神社に到着したときに点呼を行い、人数や体調を毎回しっかり確認することができました。また、修学旅行を成功させるために、みんなとコミュニケーションを取りながら予定を確認し、協力して行動することができました。その結果、思い出に残る最高の修学旅行になったと思います。

次に、勉強面では、毎日机に向かって勉強する習慣を身に付けることができました。去年はほと



んど勉強をせず、進路や将来の目標もあまり決まっていま
せんでした。しかし、今年は自分の進路について真剣に考
え、志望校を決めて、その高校に合格できるよう努力する
気持ちを持てるようになりました。

一方で、課題もありました。一番の反省点は授業態度で
す。授業中に眠ってしまったり、先生の話をしっかり聞け
なかったり、友達と話してしまい授業に集中できないこと
がありました。また、勉強時間は確保できていても、内容
を十分に理解しないまま進めてしまい、ただ作業をこなしているだけになっていたことも反省して
います。その結果、総合テストでは目標としていた点数を取ることができませんでした。

そのため、この夏休みは勉強の「量」だけでなく「質」も意識して取り組みたいと思います。
計画的に学習を進め、基礎をしっかり固めるとともに、応用問題にも対応できる力を身に付けたい
です。第三回総合テストはさらに難しくなるの
で、自分に足りない部分を補いながら、一つ一つ
の学習を大切にしていきたいと思います。

2学期は授業態度を改善し、先生の話をしっかり
聞いて、その日のうちに復習する習慣を続けたい
です。また、スマホを使う時間を減らし、十分
な睡眠を取ることで、授業に集中できるようにし
たいと思います。

夏休みと2学期は受験に向けてとても大切な
時期です。自分の目標を達成できるよう、一日一
日を大切に、全力で頑張っていきたいです。



6月 前期人権教育月間を振り返って

～校長講話「あなたらしく、今を生きる」より～

皆さん、おはようございます。今日から「前期人権教育月間」が始まります。この期間私たちは
「誰もが居心地のよいと思う学級や学校とはどんな場所か」について、一人ひとりがじっくり考え
る時間を持ちます。月間の始めにあたり、少しお話をします。これから皆さんは、学年ごとに大切
な学習をしていきます。

1年生は「ちがいのちがい」について。世の中にある「あっていい違い」と「あってはならない
違い（差別）」を見極める目を養います。2年生は「ハンセン病」の歴史から、正しい知識を持たな
いことがどれほど人を傷つけるかを学びます。3年生は「高校に対する偏見や差別」をテーマに、
進路という未来に向かう中で、不当な偏見にどう立ち向かうかを考えます。これらの学習の根底に
あるのは、すべて「命の尊さ」です。今、ここにいる皆さんは、誰一人として偶然なんとなく生ま
れたわけではありません。一つの命がこの世に誕生するということは、奇跡の連続です。多くの
人の願いや支えがあり、皆さんは今、ここに存在しています。だからこそ、あなたという存在は、他
の誰にも代えることができない、世界でたった一つの大切な命なのです。そしてそれは、あなたの
隣にいる友達、すれ違う先輩や後輩、先生方もまったく同じです。私たちは誰もが、等しく「大切
にされるべき存在」なのです。

ここで、皆さんに少し考えてみてほしいことがあります。私たちは毎日、この、学級や学校という社会の中で過ごしています。「自分が、このクラスで『あ、今ラクだな』とか『居心地がいいな』と感じるのは、どんな瞬間ですか？」あるいは「どんなクラスだったら、安心して自分を出せますか？」近くの仲間と、一分ほど意見を交わしてみてください。それでは、始めてください。（生徒同士のトーク）前を向きましょう。それぞれの思いが少し共有できたでしょうか。小学校からの長い付き合いの中で、お互いをよく知っているからこそ、かえって「新しい自分」を見せることに気恥ずかしさを感じたり、周囲の目を気にして、自分を抑えたりしている人もいるかもしれません。

人権を守る、という、どこか難しく聞こえるかもしれません。ですが、人権の本質とは、誰かに遠慮することなく、誰もが自分の命を大切に生きられるということです。そう考えると一番大切なのは、皆さんの「今」というこの瞬間です。昨日失敗したことがあっても、未来に不安があっても、私たちが生きているのは「今」という時間だけです。その「今」を、どうか自分を傷つけることなく、大切に生きてください。

そのためにも、皆さんに伝えたいのは、『あなたらしくてよい』『ありのままでよい』ということです。周りに合わせようと無理をしたり、誰かの目を気にして自分を偽ったりする必要はありません。得意なことがあっても、苦手なことがあっても、それがあなたのありのままの姿です。自分の凸凹（でこぼこ）を愛し、同時に、友達のありのままの姿も認めていく。そんなふうに、お互いが「このクラスにいていいんだ」と安心できる、居心地のよい学級、そして学校を、皆さんと一緒に作っていきたいと思っています。

最後に、ある一つの曲を皆さんに紹介します。中島みゆきさんの『誕生』という歌です。この歌詞の中に、「生まれてくれてウェルカム（Welcome）」という言葉が出てきます。あなたが今、そこに生きて存在していること。それだけで、私たちは心からあなたを歓迎しています。この人権教育月間を迎えるにあたり、この歌に込められたメッセージを皆さんの心で受け止めてほしいと思います。それでは、じっくりと聴いてください。

『誕生』 中島みゆき

一部抜粋

Remember 生まれた時だれでも言われたはず

耳をすまして思い出して最初に聞いた Welcome
Remember 生まれたこと Remember 出逢ったこと
Remember 一緒に生きてたこと
そして覚えていること
Remember けれどももしも思い出せないなら
わたしいつでもあなたに言う

生まれてくれて Welcome

1 学年の取組より いじめについて考える

○いじめとはどのようなことを指すのか？

- ・相手が嫌と思ったり、悲しい気持ちになったりすること。
 - ・暴言、暴力。悪口。仲間はずれ。 →対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの
- 「いじめノックアウト」を視聴して、なぜクラスの子どもたちは、みんなで「ぼく」を助けようと思ったのか考えよう。
- ・理由もないのに殴ったり、けったりするのはおかしいと思ったから。
 - ・前々から、いじめを見ていた友だちは自分も殴られたりけられたりしたらどうしようと思って見ていただけだったけれど、そう思っているのは自分だけじゃないとわかったときに覚悟ができた。
 - ・クラスのなかでいじめがあると、全体の雰囲気が悪くなったり、次にいじめられる人もでてきてしまうかもしれない。だから、○君は、勇気をだして「ぼく」を誘ったのだと思う。
 - ・いじめられている姿を見ているのは嫌だし、自分がその立場だったら、悲しいと思った。
 - ・友達だから。みんなが、友達になりたいと思って力を合わせようと団結し始めたんだと思う。

○授業の感想

- ・場面が少し変わっただけで、自分がいじめる人にもいじめられる人にもなりうるのが怖い。
- ・いじられているのか、いじめられているのか、相手は嫌な思いをしているのか区別が難しい。自

- 分は、その部分を考えながら、友だちと接することができるようにならなくちゃいけない。
- ・ いじめは、その人の心や体、クラス全体の雰囲気にも関わってくるから、いじめってよくないと改めて感じた。
 - ・ 度が過ぎると、犯罪になってしまうことがびっくりした。
 - ・ いじめている人が、いじめと感ぜないままエスカレートしていくのはとても怖い。クラスのみんが自分の意見を言える環境にできたらいいなと思った。

2学年の取組より ハンセン病を知ろう

- ハンセン病とはどんな病気でしょうか？
 - ・「ライ病」に感染する病気。発病すると手足など末梢神経が麻痺し、汗が出なくなったり、熱い・冷たいといった感覚がなくなったり、皮膚に病的な変化が起こったりする。体の一部が変化するという後遺症が残ることがある。
 - ・感染力は弱く、非常にうつりにくい病気。
- 「家族で考えるハンセン病」を視聴してわかったこと、感じたこと
 - ・明治時代から、隔離が行われるようになった。
 - ・患者、回復者は療養所に収容され一生出られなくなった。亡くなって、骨になっても家族のもとへ帰れなかった。
 - ・結婚しても子どもをつくることができなくなった。
 - ・ハンセン病の人がホテルに泊まることを断られたという差別もあった。
 - ・ライ予防法は、平成まで続いた。
 - ・人権を尊重する社会をつくるためには、ハンセン病のような病気による差別のことも知っておかないといけないと思った。
- 学習をして感じたこと
 - ・ハンセン病については、名前を聞いたことがあるだけだったけど、偏見から差別が起こった病気であることが分かった。
 - ・ハンセン病のことは、全然知らなくて、今日初めて知った。本当は、人に感染しないのに、偏見と差別で隔離されて、孤独なまま亡くなってしまったことが、悲しいなと思いました。
 - ・ハンセン病患者の人たちは、療養所に入れられて、家族と会えないまま生活していたことを知り、ショックだった。
 - ・まだハンセン病で苦しんでいる人たちがいるから、私たちは二度と同じような差別が起こらないようにハンセン病について正しく知ることが大切だと思った。
 - ・これから、差別と偏見がなくなるようにするには、自分が本当のことを知って、それを伝えていかなければいけないと思いました。

3学年の取組より 学歴差別について考える「エンジ色のネクタイ」

- 進学を選ぶとき、何を基準に考えますか？
 - ・通いやすさ ・自分の学力にあったところ ・学校の特色 ・部活動 ・学科
- 「エンジ色のネクタイ」を読んで、なぜ、「わたし」は絶望的な気持ちになったのか。もし自分が「わたし」だったらどういう気持ちでA高校に通うか考えよう
 - ・「わたし」は、A高校の印象がよくなかったが、第一希望ではなかったもので、最初は他人事のように思っていた。しかし、「わたし」は、第一志望の学校に落ちてしまい、A高校に通うことになり、初めて自分のこととして考えるようになり絶望的になった。
 - ・制服で、どこの学校か分かってしまうので、A高校に通うことになったとき絶望的になったのだと思う。もし自分だったら、「わたし」と同じようにすごく恥ずかしい気持ちになると思う。
- 「わたし」が、B君の姿から学んだことは何だろう
 - ・暗い気持ちで高校生活を送っているのは自分自身がこの学校を差別しているからだ。自分は周りの目を気にばっかしていたけれど、自分から前に進まないといけないと考えた。
 - ・B君のように、周りの目を気にするのではなく、自分は何を目標にして頑張るかということを考えている姿が、「わたし」にとって考えを改めるきっかけになったと思う。
- この授業を通して、感じたこと、考えたこと
 - ・自分が勝手にもった印象やイメージにとらわれなくて、目標や夢に向かって努力することが大切だと思った。
 - ・この高校の生徒はこういう（自分の学校に対する嫌悪感）気持ちをもって通っているんだろうと思うことがもう学歴差別だと思った。
 - ・創成高校の校長先生が、進路講話で「どこの高校か、ではなく、そこで何をするか」という話をしてくださったのと似ていると思った。自分の今の考えは「わたし」と似ているから、高校によって「頭がよい」「よくない」という考え方は、やめたいと思った。
 - ・自分のことは、自分で決めて、自分が決めたことは最後まで頑張る！！

「カンナ」の花、戦争と平和をテーマに本の読み聞かせ

10月の参観日に合わせて、元NHKアナウンサーの杉浦圭子さんをお招きして、平和学習に関する講演会が行われます。学校生活のなかでも、平和の象徴であり須坂市の花でもある「カンナ」を育てたり、読み聞かせボランティアさんに、戦争と平和をテーマにした本の読み聞かせをしていただいたりしながら、平和学習に繋がる活動を取り入れています。

さて、5月のPTA作業と6月の全校定植作業で、玄関前花壇を中心に植えた「カンナ」が、ここ数日の猛暑のせいもあり、みるみる間にぐんぐんと大きくなり、花が咲き始めました。夏休み中には、情熱的な赤い花でいっぱいになるのが楽しみです。

＜須坂市と「カンナ」のつながり、そして平和活動への広がりについて＞



～全校定植作業前の説明より抜粋～

須坂市の花と緑のまちづくり事業マスコットキャラクターの「かなちゃん」は、夏に大きくて真っ赤な花を咲かせる「カンナ」という植物がもとになっていることを知っていますか。

今から81年前の1945年8月6日、広島に原子爆弾が落とされました。街は一瞬にして焼け野原になり、当時は「向こう75年間は、草も木も一本も生えないだろう」と言われていました。誰もが絶望し、生きる希望を失いかけていた、そのわずか1ヶ月後のことです。爆心地からほど近い真っ黒に焦げた地面から、力強く芽を出し真っ赤な大輪の花を咲かせた植物がありました。それが「カンナ」です。その姿を見た当時の人々は、「地球はまだ生きている」「自分たちももう一度、前を向いて生きていける」と、勇気づけられたそうです。

広島の焼け野原で人々に希望を与えた「平和の花、カンナ」。この花を、平和の象徴として、希望と平和への祈りをこめて日本中に広めていきたいという思いが生まれました。これが「カンナプロジェクト」です。しかし、元々南国の植物であるカンナにとって、冬に雪が降り、厳しく冷え込む日本では、本来生き残るのがとても難しく、冬の寒さで多くのかんなの球根が腐ってしまったそうです。そこで、須坂市にある「田辺花卉園」さんが、寒い場所でも元気に育つようにカンナの株を改良してくださったそうです。お陰で、それ以降毎年、須坂市から株分けされた球根が、広島、長崎はじめ日本全国、今では世界各地に届けられるようになりました。

これが、須坂市のみなさん市をあげて「カンナ」を大事にしている経緯です。広島の人々が未来へ繋いだ「平和への想い」。その思いを受け取った須坂市や市民のみなさんの「情熱」。そして、厳しい冬から花の命を守り続けてきた栽培のプロの方、この3つのバトンが繋がっているからこそ、今年もきっと、須坂の街に、そして日本全国で、平和の象徴である情熱的な赤い花が、咲き誇ることでしょう。

先日のPTA作業で、保護者の方とカンナを植えました。今日は、残りの球根をみなさんに植えてもらいます。今日は、カンナの花だけではなく、サルビアなど、たくさんの花の命を、定植します。たくさんの人の手によって守られてきた「平和の花 カンナ」、東中学校の先輩たちがつないできた伝統である花を育てる活動、どちらも、生徒会テーマ「つ



なぐ」に関わる大切な活動ですね。地域の方の思い、先輩たちの思いを、今度は私たちが、花を大事に植えて育てることを通して、未来へと繋いでいきましょう。

学校の様子から



台湾からの教育旅行



読み聞かせボランティア



トマトのお世話（1年生技術科）



全校研究授業（数学）



小6中3一緒に学習



賞状伝達式（校長室にて）

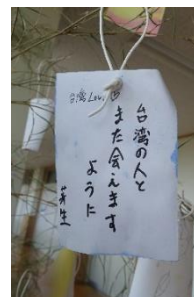
保護者の皆様へ（お願い）

○明日から8月25日（火）まで夏休みとなります。「夏休みの過ごし方」（本日配布）の内容をお子さんをご確認の上、健康的な毎日を送ると共に、事件やトラブルに巻き込まれないよう、ご家庭でもご指導ください。

○万が一事故や事件、大きな怪我、入院等不測の事態が起きたときは、学校までご連絡ください。（夜間・休日の緊急連絡先は下記参照）なお、クマ出没に関することや、交通事故、不審者情報については、警察にもご連絡をお願いします。

○夏休み中、部活動の他、生徒会の活動（文化祭の準備、水くれ当番等）、学習会等で登校する生徒がいます。登校する際は、ご家庭で登校時間等確認し合い、お子さんの所在の把握をお願いします。また、自転車を利用する場合は必ずヘルメットを着用し、時節柄天候の急変やクマ出没等にも十分注意をするよう、安全面についてご家庭でも話題にしてください。

健康に留意し、充実した夏休みにしましょう。



休み中の連絡先

＊平日の昼間（8：15～16：45）…東中学校 026-245-2342

ただし、12：00～12：45の間と、時間外は留守番電話対応となります。

＊8月8日（土）～16日（日）は、学校閉庁日のため、期間中の平日の昼間…

須坂市教育委員会学校教育課026-248-9010

＊夜間・休日の急を要する連絡…須坂市役所 026-245-1400

＊休み中に、心配ごと等ご相談がありましたら、東中学校 026-245-2342

あるいは、以下のアドレスにメールにてご連絡ください。

ただし、メールの場合は内容を確認するまで、お時間を要する場合があります。

E-mail: soudan@azuma.suzaka.ed.jp

※生徒のみなさんからのメールも受け付けております。